

知的財産報告書 2005年版



2005年7月
井関農機株式会社

目 次

ごあいさつ	1
1. 知的財産報告書 2005年版 発行にあたって	2
2. 研究開発の指針	2
3. 研究開発の方向性	3
4. 知的財産状況	4
5. 技術の市場優位性の分析	6
6. 研究開発および知的財産体制	8
7. 知的財産の取得・管理	10
8. 特許の活用	10
9. 知的財産ポートフォリオに対する方針	12
10. 知的財産関連の訴訟情報	12

[注意事項]

1. 本報告書は情報提供を目的としており、本報告書により何らかの行動を勧誘するものではありません。
2. 本報告書に記載されている当社の見通し、計画、方針、見込み、戦略、事実認識等、将来に関する記述をはじめとする分析は、当社が現在入手している予測、想定、計画等の情報に基づくものであります。
3. 予測を行なうには、すでに実現した事実以外に、一定の前提を使用しています。その前提については、客観的に正確である、あるいは将来実現するという保証はありません。その前提は、内外国の技術や需要動向、経済情勢、競合等の状況にかかわるものであり、前提が変化する結果、本報告書で述べられている、すでに実現した事実以外の事項は変更する可能性があります。
4. 本報告書に記載している特許公開件数、保有権利数等の知的財産データは、当社単独によるものであり関連会社を含んでいません。

ごあいさつ

当社は創業以来80年にわたり農業機械の総合専門メーカーとして一貫してわが国農業の近代化を追及し、その過程のなかで数々の農業機械を他に先駆けて開発し、市場に供給してまいりました。世界人口の増加と食糧問題、また今日の食料自給率や国土保全の問題を考えると、農業機械メーカーの社会的使命はますます重要になってくると考えております。「需要家に喜ばれる製品の提供」を通して、わが国ならびに世界の農業に貢献することを経営の基本理念としてこれからも活動を続けてまいります。

当社グループは現在、稲作、野菜作等に関連する農業用機械の開発、製造、販売を主な事業の内容とし、その他の事業として試験装置の製造、販売及びサービス、その他の事業活動を展開しております。これらの事業活動について、お客様、株主の皆様、投資家・アナリストの方々をはじめとするステークホルダーの皆様に対し、経営戦略や活動の成果などの企業情報の積極的かつタイムリーな開示に努めております。

従来より決算発表や有価証券報告書において、また会社説明会や新商品発表会などの機会を通じて研究開発活動と成果をご報告しておりますが、本書では、当社グループの研究開発の考え方、活動、成果としての知的財産の状況と活用等についてご報告致します。グループの研究開発及び知的財産を重視した取り組みを皆様にご理解頂ければ幸甚に存じます。



2005年7月
代表取締役社長

中野弘之

当社グループは、「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産、販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めております。農業機械、農業関連商品のコア技術の創造活動とその活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化・活用し、新たな創造に繋げる知的財産を重視した活動に取り組んでいます。

「知的財産報告書 2005年版」では、コア技術と研究開発の取り組み、特許資産管理、有効発明の発掘・権利化活動、デザインの取り組み、人材育成、知的財産権の活用、グローバル化への対応、保有特許権や発明表彰、知的財産に関するリスク情報等についてご報告します。

研究開発の指針

私たちは変化する農業の中で、「農業機械を通じて社会に貢献する」という使命を抱き、技術者一人ひとりが「技術精神」に則って創造的な研究開発を行っています。蓄積した全ての技術を活用し、お客様の視点に立った顧客満足度の高い商品を提供することにより、農業に貢献してまいります。

技術精神

・アイデアを売り込む

技術の基本はアイデア開発にある。絶えざる頭脳練磨による理論と経験に裏付けされたアイデアをメーカーのプライドとして商品に注入する。

・技術総力を発揮する

当社で蓄積された全ての技術を駆使し更に広く新技術を求め、総合技術力を発揮する。

・常に一步を先んじる

熾烈な企業競争下に於いて、その根源をなすものは、技術競争である。絶えず技術革新の方向を見極め専門メーカーとして常に他社より一步進んだ技術開発を行う。

・商品理念に徹する

優れた商品(高性能、低コスト、市場性大)の開発により農家の繁栄に寄与すると同時に企業収益に貢献する。



当社は創業以来80年にわたり農業機械総合専門メーカーとして数々の農業機械を世に送り出し、その間技術成果として多くの知的財産権、ノウハウを蓄積してまいりました。独自のノウハウを活かし、整地機では土作り技術、田植機では苗の育苗・移植技術、収穫調製機では収穫・調製技術レベルを向上させてまいりました。そしてその技術を省力化の余地が大きい野菜作機械、高付加価値型の農業用施設、コイン精米機等の農機関連商品、作業適応性の高い海外商品等へと展開しております。私たちはこれらの技術をコア技術として、これからもわが国並びに世界の農業に貢献してまいります。

研究開発投資については、中長期的展望に立ち需要と市場動向を予測し、計画的な投資を行っております。なお2004年連結会計年度の研究開発費は売上高の約2.5%に相当する約39億円であります。

研究開発の方向性

農業機械技術、農業関連商品技術、海外商品技術のすべての技術領域において、「満足」、「安全」、「安心」、「環境」の4つのキーワードを「ものづくりの原点」とし、研究開発を推進しています。

トラクタ

乗り心地がよく、運転し易い機械を目指し、条件の適応性が高い変速・操作性に優れたドライブシステム、パワートレイン、ミッションを中心とした複合制御システム、高速通信システム、イージーオペレーションシステム、多様な作業機とマッチする高精度作業等の研究開発に取り組んでいます。

田植機

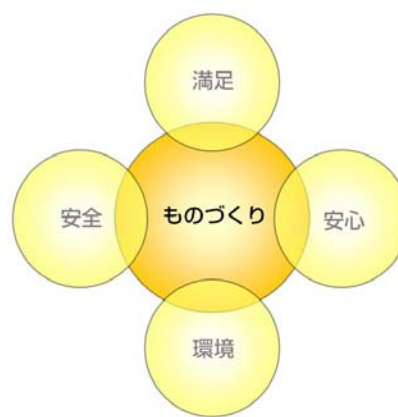
運転作業、田植作業時のハンドリング負荷を軽減するためのロボット化技術、植付け・整地・湿田性能を高め田植作業の高速化を図るハイクオリティー自動制御技術、ハイテクを利用した低コスト農業支援技術の研究開発を行っています。

コンバイン

大規模農家、営農集団向けには高機能、高性能、高能率を発揮する自動制御技術、また中小規模農家向けには低価格と使い易さをコンセプトとした商品のシリーズ化を図っています。機能面では、軽量・コンパクトな高能率・高精度化技術、運転し易く快適なコックピット、収穫物処理作業の利便性向上、ITを利用した省力化制御技術の研究開発に注力しています。

乾燥調製機

ポストハーベスト作業として、誰でも簡単に安心して使え、高精度なクリーン作業ができる商品の研究開発を進めています。乾燥機では乾燥エネルギーの効率的利用による省エネルギー技術、安全でクリーンなロータリーバーナー、高効率で高精度な乾燥制御の研究開発を進めています。



4つのキーワード

籾すり機では選別風、揺動選別部等を工夫し、より操作が簡単な独自の調製技術開発を進めています。

野菜作機械

水稻技術で培った機械化一貫体系のノウハウを活用して播種・植付け・収穫作業の野菜作一貫体系や多様な野菜作物への展開を図っています。

野菜移植機では、後作業である収穫作業の高能率化をもたらす新移植体系、環境配慮型移植機、オペレーターの労力を軽減する軽量多条植乗用型移植機の研究開発を進めています。

野菜収穫機では、作物条件の適応性を高め、大量収穫、収穫物収容作業の効率化や大容量収容等、小型高能率技術の開発を進めています。

農業関連商品技術

安全で高品質な食を目指したハイテク利用の高付加価値型養液栽培施設、環境重視型施設、省エネルギー型施設等の農業用施設、高機能型の環境にやさしい乾式無洗米コイン精米機の研究開発に取り組んでいます。

海外商品技術

芝質等適用条件の広い、価格競争力のある高性能芝刈り機、軽量・高耐久・高能率の低価格型トラクタ、コンバイン、田植機、野菜作機械等の研究開発を行っています。

知的財産状況

(1) 受賞の歴史

当社では創業以来多くの技術者が農業機械技術の開発・育成・実用化による貢献に関連して国家勲章、国家褒章、科学技術功労者表彰、発明表彰等を受賞しています。昭和27年には、創業者である井関邦三郎が(社)発明協会の全国発明表彰を受賞し、平成5年には、当社が日本で初めて実用化に成功した自脱型コンバインが「実用的な自脱コンバインの開発と普及」の功績として「農業試験研究一世紀記念会会長賞」(農水省、農業試験研究一世代会共催)を受賞しました。(社)発明協会表彰では、全国発明表彰を18件、地方発明表彰を151件、合計169件を受賞しております。技術者でもあった創業者の研究開発に対するフロンティアスピリットが脈々と受け継がれ、知的創造活動による実用的な新技術の創出が当社の伝統になっています。

発明表彰受賞件数 169件 (平成16年11月末現在)

受賞内訳

○全国発明表彰 18件

特別賞	発明協会会長賞	1件
	朝日新聞社賞	1件
特賞		2件
発明賞		14件

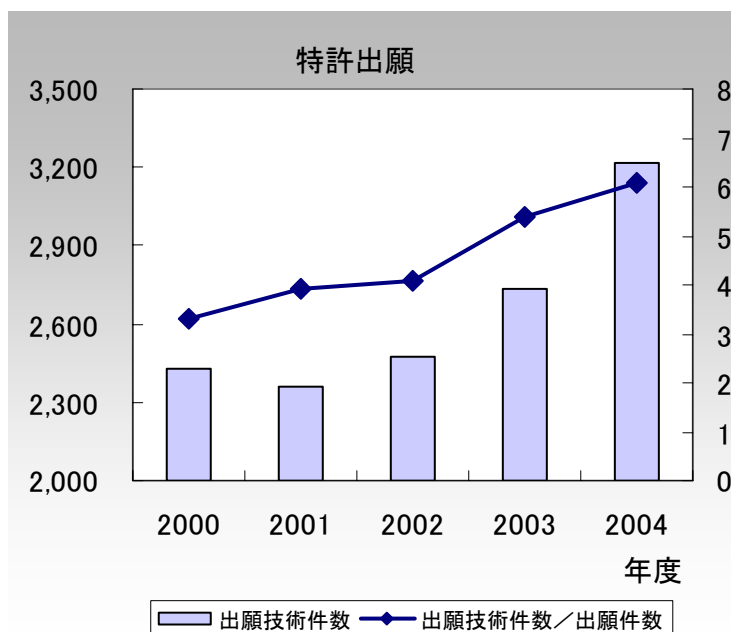
○地方発明表彰 151件

特別賞	文部科学大臣発明奨励賞 (前科学技術庁長官発明奨励賞)	8件
	特許庁長官奨励賞	5件
	経済産業局長賞 (四国通商産業局長賞)	7件
	発明協会会長奨励賞	7件
	日本弁理士会会長奨励賞	4件
	合計	31件
支部長賞		7件
優秀賞他		37件
発明奨励賞		76件

(2) 発明の創出・特許出願戦略

当社は、コア技術の個別技術テーマ毎に創造性手法を利用した独自の発明提案活動を推進し、発明の「質」の向上と「量」の拡大を図り、技術開発の成果を明確にしています。技術者は発明に対する強いこだわりと活発な創作意欲を持ち、近い将来に実用化される技術に対する発明提案件数は年々増加しています。

発明提案は社内規程と基準に基づき厳しく選考され、実効性のある発明だけが出願されます。発明の拡大のために当社独自の特許出願効率化策を実行し、基本技術を中心とした特許網の構築を進めています。



(3) 商品デザインの考え方

[デザインの基本姿勢]

「魅力ある商品、使ってより満足頂ける商品」を基本姿勢としております。

[デザイン開発に対する取り組み]

商品デザインにあたっては規模・年齢・性別等の階層別市場調査を行い、お客様やセールスマンの声を聞き、また農業機械だけでなく、自動車など一般商品のデザイン動向の分析も行っています。

そして、それらをもとにデザインコンセプトを構築し、デザインの方向を明確にした上で、具体的な商品デザインを進めています。

[デザイン展開]

デザインコンセプトには、必ず「時代性を感じる新しい魅力の創造」と「井関らしさの継承」を掲げています。「井関らしさ」とは、視覚に強く働きかける統一された当社の商品カラー、商品特性に合わせた商品らしさをスタイリングに織り込むことだと考えています。

トラクタでは、大きな作業機を引っ張るために力強く大地を踏ん張るイメージ、田植機では、田圃の上を浮いて滑っていくような軽やかなイメージ、コンバインでは、刈り取った稲が前方の刈取り部から後方の脱穀部に斜めにきれいに流れていくイメージをそれぞれの「商品らしさ」として捉え、デザインを行っています。また、これらに「時代性を感じる新しい魅力」を創造して加えていくことで、多くのお客様に魅力を感じて頂き、中セキの商品として安心してお使い頂けるものになると考えています。さらに、お客様に満足して頂くために、当社では、デザインによって商品をより使いやすいものに変えていくことを目標に掲げています。具体的には、操作席回りのレイアウトや表示等の改善にとどまらず例えばトラクタでは、居住性を高めたフルフラットフロア、コンバインではオペレーターを埃から守る防塵カバー、乗用田植機では前方からの乗り降りを可能にしたラウンドステップ等、これまでも数多くの使い易さを形にして提案してきました。お客様が魅力を感じ、使ってより満足頂ける商品を目指してデザイン開発に取り組み、農業機械のデザイン向上をリードしていきたいと考えています。



トラクタ



田植機



コンバイン

技術の市場優位性の分析

(1) 農業機械技術

[トラクタ]

当社特有のIQ技術をさらに進化させた高機能新変速技術である「オート変速」技術を開発しました。

オート変速はシフトレバーを路上走行に入れ、クラッチを接続するだけで後はアクセルペダルを踏み込めば、最高速まで自動的に変速してくれる「アクセル変速」、圃場を移動しても、シフトレバーを再び「作業」に入れば、自動的に前回の車速で作業を開始する「メモリー変速」、路上、圃場、坂道など路面状況に応じて、トラクタ自体が2WD・4WDの最適な駆動方式をすばやく選択する「オート4WD」を総称しています。

路上走行に威力を発揮するアクセル変速、作業を記憶するメモリー変速、常に最適な駆動を選択するオート4WD、3つのオート変速機能が、路上でも圃場でも、確かで快適な走りを実現します。

これらの技術はジヤスATに織込まれ、安全、簡単、高能率・高精度の3つの走り、環境にやさしい「アドバンスドテクノロジー」として多くの農家から好評を博し、2004年度のトラクタ販売台数の増加に貢献しています。

[田植機]

高齢者や女性、作業に不慣れな方にも楽に、簡単に田植え作業を行なうことができる操舵技術、圃場条件が不良状態の下でも安定した作業能率を保つ自動制御技術、高精度・高能率の植付け技術、枕地作業の省力化技術等の研究開発に取り組んでおります。

[コンバイン]

穀粒の排出位置を簡単に合わせることができ、作業能率を向上するズームオーガを他社に先駆けて実用化し、さらに軽量化により、6条刈コンバインから小型コンバインにまで搭載できるズームオーガを新たに開発しました。

本機から離れた所で無線操縦により排出筒の上下移動、左右伸縮、クラッチの入り切り操作を簡単に安全に操作できるラジコンオーガ、排出筒の先端部を左右にスイングして排出状態を均平化するスイングオーガを開発し、市場での優位性の確保に努めています。このオンリーワン技術のズームオーガは既に基本の特許権を取得しており、特許網の構築を引き続き進めています。

[乾燥調製機]

効率化、省力化、高精度化と簡単に安心して使える機械を開発の基本方針としております。

乾燥機は瞬間消火で安全なロータリーガス化バーナーを標準装備し、クリーン、省エネルギー、遠赤外線との組み合わせによる乾燥効率の向上による高精度な乾燥制御技術の研究開発を進めています。

刎すり機は大容量の選別部、揺動選別部の独自の構成により、お客様を選ばない誰でも使える簡単操作技術の研究開発を進めています。

[野菜作機械]

野菜苗用移植機械は乗用型と歩行型に大別されますが、現在は歩行型が主流となっています。歩行型には全自動、半自動があり、苗の適用条件や作業の安定性等から半自動型の割合が6割と多くなっています。長年培った歩行型半自動移植機の技術・ノウハウを使用し、全自動型、軽量コンパクトな乗用型、高能率型へ、また野菜周辺作物等作物拡大への研究開発を進めています。

野菜収穫機は小型・高能率化、作物条件の適応性向上に注力しており、収穫から調製に至るミニプラント等、野菜収穫一貫体系の研究開発に取り組んでいます。

(2) 農業関連商品技術

農業用施設は、特に養液栽培技術に注力しており、作物育成のノウハウと栽培技術指導体制を確立し、植え付けから出荷までの一貫体系を構築しています。新たに使用済排液の再利用技術、クリーンエネルギー利用の空調技術、排ガスの施肥化技術等の研究による低コストで環境にやさしいクロージングシステム養液施設を開発しました。

今後、安全・安心・高品質な食を目指したハイテク利用の施設、リサイクル技術を多用した環境重視型施設、省エネルギー型施設等の農業用施設、ハイテクを利用した省力型農業用施設の研究開発に注力してまいります。

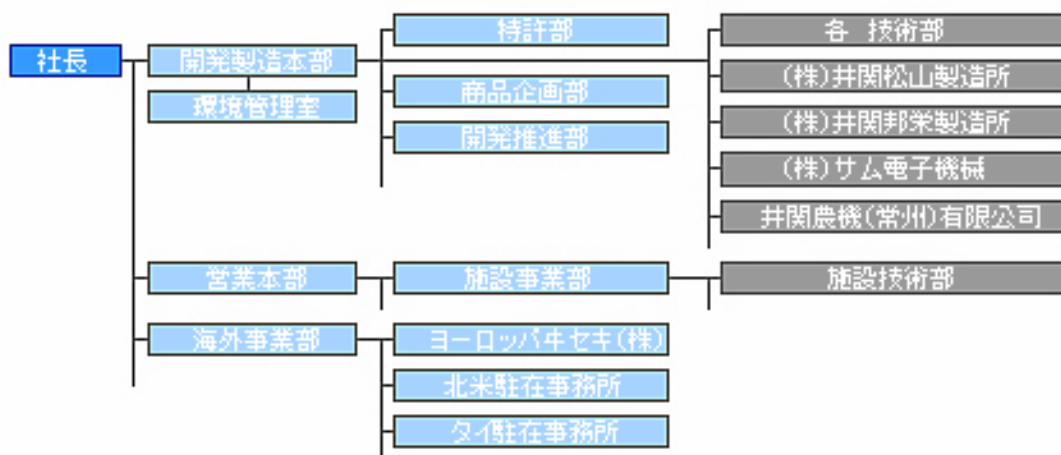
コイン精米機は玄米への負荷を軽減した高品質の精米をおこなう自動制御技術、水を使わない低コストの乾式無洗米、精米対象物の自動識別、無調整技術等の研究開発に取り組んでおります。

(3) 海外商品技術

欧米市場に対しては条件適応性の高い高性能・コンパクトな芝刈り機とトラクタの開発、中国市場に対しては高能率で耐久性の高いコンバイン、田植機、トラクタ、野菜作機械、乾燥機等の開発、タイ等他のアジア地域に対しては軽量で高い耐久性の農業機械の研究開発に注力しています。

研究開発及び知的財産体制

(1) 研究開発組織図



(2) 研究開発体制

国内外の農業機械技術については開発製造本部の各技術部、農業用施設については施設事業部の施設技術部が研究開発を行なっています。関連会社の(株)井関松山製造所、(株)井関邦栄製造所、(株)サム電子機械には製品・技術開発に直結する開発部門があります。また開発部門が各製造所内に設置され、生産技術部と共同し生産設計を行う体制となっています。そのほか(株)井関松山製造所ではエンジン、(株)井関邦栄製造所では農業用小型機械・食品機械、(株)サム電子機械では試験装置等の精密機械の研究開発をそれぞれ行なっております。

[商品開発・技術開発担当]

- ・井関農機(株)…………… トラクタ、田植機、コンバイン、乾燥調製機、野菜作機械、農業用施設、コイン精米機、海外向け商品等
- ・(株)井関松山製造所 …… ディーゼルエンジン
- ・(株)井関邦栄製造所 …… 耕うん機、洗米炊飯機、農産物冷蔵庫
- ・(株)サム電子機械 …… 自動車用試験装置等

[海外商品開発ネットワーク]

海外商品の開発体制としては、ヨーロッパキセキ(株)、北米駐在員事務所、新たに設けたタイ駐在員事務所、そして2004年3月、中国江蘇省常州市に開業した井関農機(常州)有限公司により、欧州、米国、中国、アジア地域での開発ネットワークが完成し、海外商品の技術開発活動に一段とスピードアップが図られています。



(3) 知的財産体制

[管理体制]

知的財産管理を担当する特許部は、開発製造本部に所属しており、関連会社を含むキセキグループ全体の知的財産管理、指導、教育を行なう一元管理体制をとっています。

[人材育成]

グループ方針として「キセキグループ総合力の発揮」を掲げ、その根幹である人材の育成を図っております。知的創造活動においてもスピードを重視し目標達成に執念をもって取り組む人材の育成に努めています。

(4) 研究開発アライアンス

コア技術について独自開発を原則としていますが、技術テーマにより大学や試験研究機関等と共同して研究開発を進める方針であります。現在、試験研究機関と4テーマ、大学と2テーマ、他8テーマの合計14テーマについて共同研究を行っています。

知的財産の取得・管理

発明考案、権利の取得・管理、企業秘密情報等については、まず井関グループ倫理行動規範等でコンプライアンスの徹底を図るほか、就業規則、職務発明取扱規程、商標取扱規程に基づき管理しています。他者の知的財産権の尊重、企業秘密の保全に対し、故意もしくは重大な過失により違反した場合には罰則の対象になります。

発明者に対しては、就業規則・職務発明取扱規程・補償金支給評価基準等の運用による発明承継対価、実施補償、社内外の表彰等によって発明創作へのインセンティブを与えています。

また、発明の創作時から権利の放棄に至るまで多くの規程・基準により知的財産を厳格に管理しています。例えば、特許権の価値評価については、平成7年4月に実施権利の価値を金額算定する「特許権の価値算定基準」を設け、社会通念に適合するように逐次見直ししながら自社の特許資産管理や権利交渉等に活用しています。

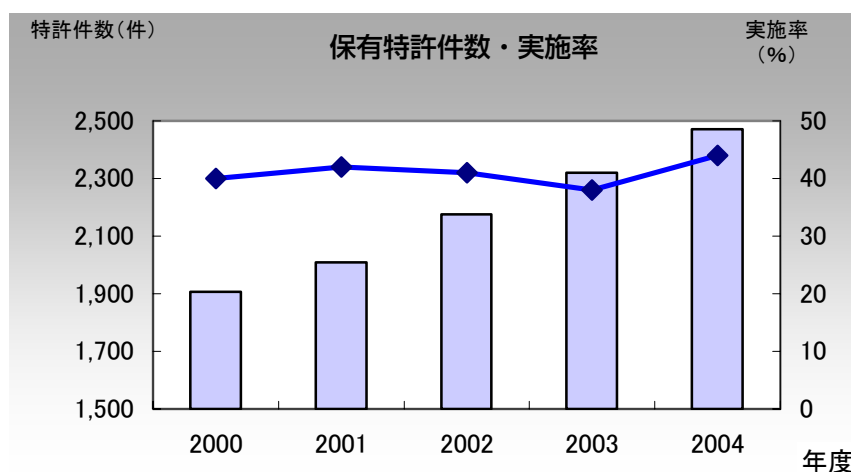
特許の活用

特許権についての当社の考え方は、コア技術及びこれに関連する領域にある特許権について、自社製品の優位性の確保やクロスライセンスによる商品開発の円滑化により事業を成功させることを重視しています。この領域に該当しない権利については、将来の実効性を考慮したうえで、例えば譲渡等による活用を図るなど、企業にとって有益な手段を採用しています。

(1) 特許保有状況

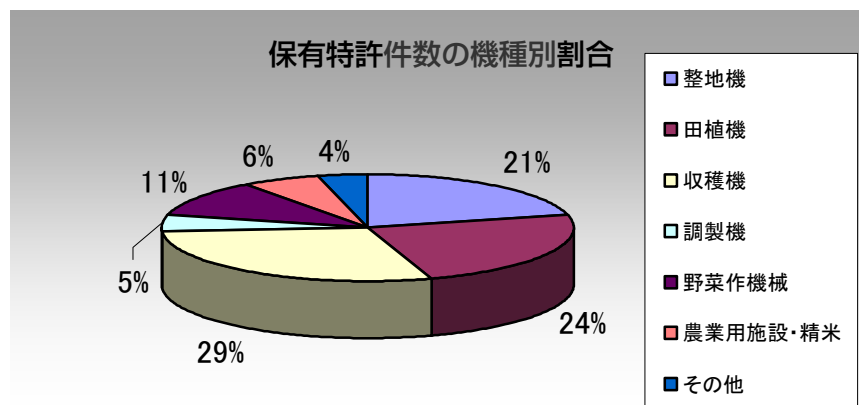
[国内]

社内規定及び審査基準をクリアした発明を積極的に特許出願するとともに自社及び他社の技術動向を精査し、有効権利の取得と蓄積に努めています。過去5年間の保有特許件数は年々増加しており2004年度は約2500件に上る水準となっています。



2005年3月末時点での主要3機種(整地機、田植機、収穫機)の全保有特許に占める割合は74%を占めています。また、積極的に取り組んでいる野菜作機械の割合は11%で、前年よ

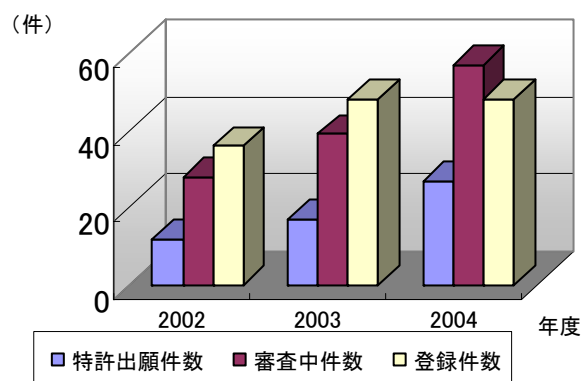
り2%増加しています。農業用施設等についても質及び量の拡大を進め、事業戦略を重視した“強くて良い特許”の特許網を構築すべく知的財産戦略を実行してまいります。



[海外]

海外へは米国、欧州、アジア地域をターゲットとした事業戦略に整合する厳選した発明の特許出願を着実に進めています。特に、中国、米国を重視した知的財産取得を進めます。

海外における特許出願の推移



(2) 特許登録率、特許出願関係

「特許庁編 特許行政年次報告書 2004年版」によれば2003年特許登録率上位30社中、当社は71.0%の第8位にランクされ、2年連続ベスト10に入っています。また日本における分野別公開数統計表2002年公開分野別上位出願人の農水産分野では、公開数は436件で前年につづいて第1位です。今後も積極的な特許公開を進めてまいります。

(3) 受賞関係

[文部科学大臣表彰科学技術賞]

“現に利活用され、わが国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発もしくは発明”を表彰する科学技術分野の文部科学大臣表彰において、「文部科学大臣表彰科学技術賞 開発部門」を受賞しました。

(業績名) 高性能乗用型田植装置の開発

[社団法人発明協会表彰]

(発明表彰) ・愛媛県支部長賞 1件

特許番号 特許第3282587号

発明の名称 伸縮式穀粒移送装置

・発明奨励賞 3件

[農業機械学会関西支部技術開発賞]

コンバインのグレンタンクから大豆を排出する際の労働の軽減化と作業効率の向上を両立させ、大豆の品質を損なわないエア排出システムの技術開発により第2回農業機械学会関西支部技術開発賞を受賞しました。

(業績名) 小型汎用コンバインのエア排出システムの開発

[文部科学大臣賞]

平成16年度職域における創意工夫功労者表彰において、優れた創意工夫によって職域における技術の改善、改良向上に貢献した実績顕著な勤労者を表彰する「文部科学大臣賞」を(株)井関松山製造所と(株)井関新潟製造所のメンバーが受賞しました。

(業績名) 組み立てラインの効率アップに関する改善 ((株)井関松山製造所)

(業績名) 塗装排水スラッジの廃出量削減に関する改善 ((株)井関新潟製造所)

知的財産ポートフォリオに対する方針

(1) 技術動向

公開特許公報、特許公報に掲載された発明を定常的にモニター分析し、知的技術動向をふまえて発明活動を行ってまいります。それらの技術動向からコア技術の発明について強み、弱み(先行、同等、遅れ)を分析し、自社技術の位置付けを明確化しています。

これらの動向は、日ごろの業務展開の中で開発関連部門に提供し、技術、企画を含めた全社の共有情報として事業戦略・研究開発戦略の構築資源としています。

(2) 技術テーマの設定

事業戦略、研究開発戦略に基づいて、コア技術に関連する有望技術や市場動向等から、開発・営業を含む関連部門の総意により技術テーマを設定し、それぞれ目標を定めて発明提案の啓蒙と特許出願を行い、事業の成功や商品開発のプライオリティを確保するために有効権利の取得を推進しています。

知的財産関連の訴訟情報

国内外ともに経営に影響を与える知的財産権訴訟の継続中の案件はありません。事業、研究開発の推進にあたって、細心の注意を払い、知的財産戦略を着実に実行します。

会社概要

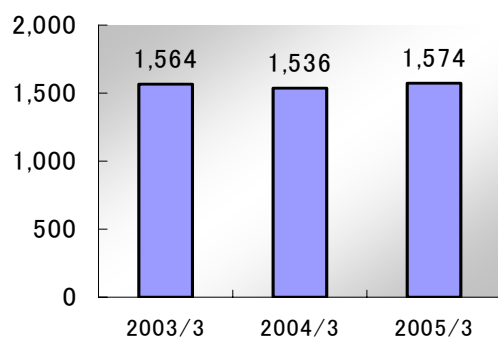
社名	井関農機株式会社 (ISEKI&CO., LTD.)
本社	愛媛県松山市馬木町700番地
本社事務所	東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号
創立	大正15年(1926年)8月
資本金	225億3425万円(2005年3月31日現在)
従業員	連結:6,665名 単体:716名(2005年3月31日現在)
事業内容	<p>当社はつぎの製品の製造および販売を主要な事業内容としております。</p> <p>整地用機械・・・トラクタ、耕うん機、管理機、芝刈り機</p> <p>栽培用機械・・・田植機、野菜移植機</p> <p>収穫用機械・・・コンバイン、バインダ、ハーベスタ</p> <p>調製用機械・・・籾すり機、乾燥機、精米機、計量選別機、野菜収穫調製機</p> <p>その他 ……作業機、補修用部品、農業用施設</p>

開発製造に関する関連会社

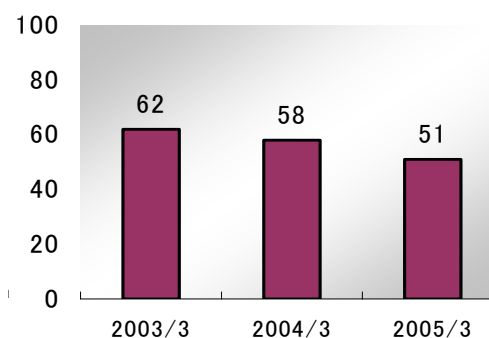
- | | |
|--------------|-----------------|
| (株)井関松山製造所 | (株)サム電子機械 |
| (株)井関熊本製造所 | 松山ファクトリーサービス(株) |
| (株)井関新潟製造所 | (株)キセキエフエス熊本 |
| (株)井関邦栄製造所 | (株)井関植木製作所 |
| 井関農機(常州)有限公司 | |

業績推移

■ 売上高 (億円)



■ 営業利益 (億円)





報告書に関するお問合せ先

井関農機株式会社 開発製造本部 特許部
〒791-2193 愛媛県伊予郡砥部町八倉1番地
Tel. (089)956-9810 Fax. (089)956-9818
URL: <http://www.iseki.co.jp/>
E-mail: pat-matsuyama@iseki.co.jp